

科目「SSH探究Ⅰ・Ⅱ」ワークシート「探究活動の振り返り」

探究活動では、「客観的なデータによる仮説の検証」が重要な要素であると位置づけられています。それぞれの質問について、今年度の探究活動の報告書原稿を自分でチェックして、次年度のよりよい探究活動につなげましょう。

報告書の要素	質問	○または×
目的・仮説	Q1 「○○において、△△が変化すると、□□に与える影響が大きくなる。」のような適切な仮説になっていますか？	
	Q2 仮説ではなく、「○○を調べて、解決策を提案する。」や「○○とは何かを明らかにする。」のような調べ学習の目的を書いていませんか？	
	Q3 仮説に設定した対象は、あなたが検証できる適切な大きさですか？（戦争をなくす、少子化の解決、過労死の防止などは、確かに探究の価値はありますが、検証しづらい大きすぎる対象です。）	
調査の方法・結果	Q4 設定した仮説を検証するためのデータを書いていますか？（ホームページや書籍に掲載されている表やグラフを報告書原稿にコピーするのは、調査を実施してデータを得たことにはなりません。）	
	Q5 アンケートを用いて調査を実施した場合、そのアンケートの質問項目にモレや重複はありませんか？（例えば、○をつける項目がないケースや、幾つも○をつけるケースはよくありません。）	
	Q6 考察で述べることを裏付ける適切なデータはありますか。（例えば、アンケートで、仮説の検証に必要なはずの質問項目がなかったり、仮説の検証に無関係な質問項目があったりしていませんか。）	
考察	Q7 「○○において、△△が◇◇の場合、□□に与える影響が最も大きくなると考えられる。」や「○○において、△△が□□に与える影響はないと考えられる。」などの適切な考察になっていますか？	
	Q8 「△△の影響を調べていると、☆☆の影響もあることに気付いた。」や「◎◎の影響も気になった。この影響もあるかもしれない。」など、目的や仮説と無関係な記述をしてはいませんか？	
	Q9 「今後、○○が分かってくるのが待たれる。」のような第三者的意见や「○○であるべきである。」などの一般論に終始していませんか？	



×のついた項目について、何をどのように書き換えればよくなるかを、完成した報告書原稿に赤で書き込んで、修正しましょう。
赤で書き込んだ修正は、次の学年の探究活動に向けた改善のための大きなヒントとなります。今年度の経験を生かして、次年度の探究活動で、ワンランク上の仮説の設定や調査を行いましょう。